

第Ⅱ部 各 論

第1章 調査概要

1-1 基本的な考え方

第1年次調査によって判明した空中磁気異常および空中電磁異常の箇所は、それらの異常の原因が必ずしも磁硫鉄鉱等を含む鉱化帯であるとは限らない。また、なんらかの金属鉱化作用に関係する可能性があるとしても、空中物理探査の精度では、同探査の結果だけでボーリング調査の箇所、深度および方向を策定するのは一般に困難である。

そして、精度の高い物理探査を組み合わせることで実施し、様々な種類のデータを総合的に解析し、有望地区を絞り込むことによって探査精度を高めることができ、更に高額の費用が発生するボーリング調査の探査リスクを軽減することができる。

更に、ボーリング調査を行うことによって、岩盤の露出が乏しい本地域の地質や鉱化作用の有無・性状を直接知ることにより、物理探査の異常の原因を判断することができると考えられる。

1-2 調査の流れ

第1年次調査によって判明した空中磁気異常および空中電磁異常の箇所において IP 法電気探査を行い、地質構造に関連する IP 異常域の抽出を行い、有望地区を絞り込み、その位置・形状を推定する目的で電磁探査 TEM 法を実施する。これらの解析結果を更に第1年次の調査結果や既存資料と合わせて解釈することにより、ボーリング調査実施地区の絞り込みを行い、鉱化帯について最も可能性が高い位置、または鉱化帯の位置を知るための地質構造を知る上で最も効率的な箇所を選定し、深度・方向を策定しボーリング調査を実施する。

調査の流れを以下に示す。



